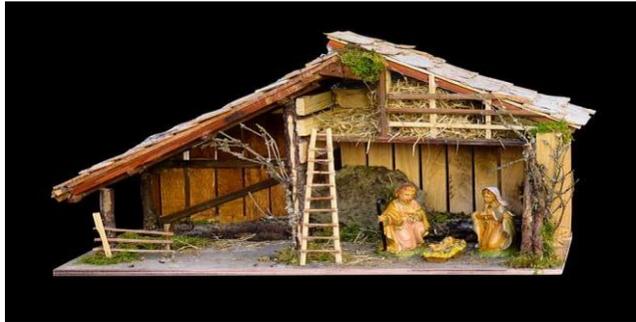


クリスマス：神様にしか答えがないことがある



兄弟姉妹の皆さん

クリスマスが近づいてまいりました。皆さんお元気に過ごしのことと存じます。この寒さの中にいる私たちは暖かい心で世の救い主であるイエス様を迎えましょう。

皆さんがご存じの通り、典礼歴により待降節は1日から16日、そして17日からクリスマスイブまでの二つの期間に分けられています。

1日から16日までのミサの中で読まれる福音は、すべて悔い改め、神の国が近づいていると述べます。この期間はカトリック信者がゆるしの秘跡を通して神様と和解する期間となります。神様との、また隣人との関係の中で誤ったことや罪に陥ったことなどを告白し、ゆるしを願います。ダビデの町でお生まれになったキリストが馬小屋の中に住まわれるのではなく、人間の心の中で相応しく住まわれるようにと心を準備します。インマヌエル（神は我々と共にいる）という言葉は、クリスマスの大変重要な言葉です。そう言うことによって人間の心と神の御心が近いと感ずることが出来ます。

17日からクリスマスイブ（24日の夕方）までのミサの中で読まれる福音は、悔い改めの呼びかけではなく、神様からの神秘的なものが世界に入り込むこととその神秘的な出来事に反応する人物たちの物語として記されています。イエス・キリストの系図により、アブラハムからダビデまで十四代、ダビデからバビロンへの移住まで十四代、バビロンへ移されてからキリストまで十四代です（マタイ 1:17）から、神様は御ひとり子の誕生を昔からお定めになっていたことが分かります。

天使ガブリエルからマリアへのお告げがあり、特別の形でザカリアとエリサベトが神様により子供を授かる恵みを受けた物語（洗礼者ヨハネの誕生）、ヨセフとマリアの間に聖なる神の子が生まれることについての現実を悟り、この世に救い主がお生まれになりました。

ザカリアは天使ガブリエルからのお告げを聞いたときに祭司としての自分の奉仕を精一杯していたところでした。いいえ、神の家で祭司職を果たすだけで精一杯だっただけでなく、自分の人生でも精一杯でした。高齢であり、不妊の女と言われたエリサベトとの間に男の子が生まれるという知らせは信じ難く、受け容れられませんでした。天使ガブリエルからの喜ばしい知らせを信頼していなかったザカリアは口がきけなくなりました。ザカリアの長い沈黙のうちに二人の間に天使から告げられた言葉が実現しました。

ザカリアと同じようにヨセフは愛している妻マリアと一緒にいる前に、マリアが身ごもっていることを知って、マリアとの縁を切ろうとしていました。疑い、悲しみ、絶望に襲われたヨセフに対して神様は人間を救うために定められたご計画を夢の中で丁寧に説明してくださいました。

兄弟姉妹の皆さん、イエスの誕生により世界の新しい歴史が始まりました。しかし、世の救い主であるキリストの誕生の前に、疑い、悲しみ、絶望があったということを考えることがあるでしょうか。限界のある人間の世界に入ってくださいる神様は、ご自分の計画が疑われることがあると知っておられました。ザカリアとヨセフにとって思いもよらないこの神秘を受け容れ、この二人が理解するようにと優しく導いてくださいました。人間が理解できない部分は理解できるように助けてくださいました。

神様に愛されるために呼ばれた皆さんにも、ザカリアとヨセフが体験したことを理解してほしいです。自分の毎日の生活の中で起こるすべてのことに何か神秘的だとか、考えられないとか、お祈りしかできないなど、この世の中で探しても答えがなかなか出てこないという時もあるでしょう。そのような時には、神様にしか答えがないことに信頼して、恐れることなく物事に直面できるような力や恵みを神様に願うという信仰を持ってほしいです。私たちと共にいる、インマヌエルと呼ばれる神様は私たちを見捨てることはありません。私たちの不安、悲しみ、絶望より神様の愛の力ははるかに強いです。

クリスマスおめでとうございます。

今年のクリスマスの恵みが皆さんの上に豊かに注がれるようにお祈りいたします。

2024年12月

カトリック上野毛教会 主任司祭
ペトルス・ウィリー・ツバ・ドイ O. C. D.